

再評価結果

担当課：有料道路課
担当課長名：上野 進一郎

事業名	日本海沿岸東北自動車道（中条～荒川）		事業区分	高速自動車国道	事業主体	東日本高速道路(株)
起終点	自：新潟県胎内市弥彦岡 至：新潟県村上市南新保				延長	9.8 km
事業概要	日本海沿岸東北自動車道は、北陸道とあわせて日本海沿岸地域の産業、経済、文化の交流発展を推進する路線である。					
H10年度事業化	H8年度都市計画決定 (H年度変更)		H12年度用地着手		H13年度工事着手	
全体事業費	約303億円	事業進捗率	58%	供用済延長	km	
計画交通量	5,600台/日					
費用対効果 分析結果	B/C (事業体) 1.7 (残業) 4.4	総費用 (残業)/(事業全体) 137 / 350億円 事業費：89 / 302億円 維持管理費：48 / 48億円	総便益 (残業)/(事業全体) 601 / 601億円 走行時間短縮便益：497 / 497億円 走行経費減少便益：93 / 93億円 交通事故減少便益：10 / 10億円	基準年 平成20年		
感度分析の結果	残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C = 4.8 (交通量 +10%) B/C = 3.9 (交通量 -10%) 事業費変動：B/C = 4.1 (事業費 +10%) B/C = 4.7 (事業費 -10%) 事業期間変動：B/C = 4.5 (事業期間 -1年) B/C = 4.2 (事業期間 +1年)					
事業の効果等	日常活動圏の中心都市間へのアクセス向上が見込まれる 高度医療施設までの搬送時間が短縮される 緊急輸送道路が通行止めになった場合の代替路線を形成する 他12項目に該当					
関係する地方公共団体等の意見	北陸自動車道等と連結して、沿線地域の開発を促進し、広域連携による産業、経済、文化の飛躍的発展と災害時の緊急輸送、日常の救急救命医療に大きな役割を果たす重要な路線である。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	隣接する荒川～朝日間は、新直轄区間として整備中。					
事業の進捗状況、残事業の内容等	現在工事中。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	今後も引き続き工事の推進を図る予定。					
施設の構造や工法の変更等	新技術・新工法や現地の状況変化も確認しながら積極的にコスト縮減を図っていく。					
対応方針	継続事業					
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。					
事業概要図						

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。